学校教育目標：笑顔いっぱい 楽しく学ぶ 鍋島っ子の育成

なべしまっ子

学校便り６号
令和６年９月３日
児童数７６５名
文　責　井原　竹始

2学期がスタートしました

長い夏休みが終わり、２学期がスタートしました。台風 10 号の影響で８月 29 日、30 日が臨時休校となり、４日遅れてのスタートとなりました。今回の台風 10 号は、進路が定まらず、進路予想を見るたびに変わり、どんどん佐賀に近づいてくるコースとなりました。接近する随分前から雨風が強くなり、速度も遅いせいで、長い間影響が出ました。各家庭で台風による被害はなかったでしょうか。

９月２日、私は校門に立ち、子どもたちを迎えました。みんな笑顔で登校して来ました。挨拶はちょっと元気のない子もいましたが、「夏休み楽しかった？」と質問すると、「めっちゃ、楽しかった」「〇〇に旅行に行って最高でした」「バーベキューして、花火して、キャンプして楽しかった」「いとこがいっぱい集まって楽しかった」と、次々に楽しかった話をしてくれました。きっといろいろな体験、思い出ができたことと思います。１学期の終業式の際に、「しっかり遊び、しっかり勉強し、しっかり触れ合う夏休みにしてください」と話をしていたので、そんな夏休みを過ごせていれば嬉しいです。「どんな夏休みだったか」ゆっくり聞いていきたいと思います。ご家庭でも、今年の夏休みを振り返ってみると、改めて子どもの成長を実感できるかもしれません。

子どもたちは、「２学期がんばろう」という気持ちで登校してきています。２学期は、修学旅行、バス旅行、校外学習等多くの行事があります。また、学習にも集中できる学期です。それぞれの行事や授業で、一人一人がしっかりと目標をもち、その目標に向かって頑張る姿を期待します。子どもたちの輝く姿、達成感に満ちた表情が見えるように、全職員で支援していきます。

中には、夏休み中に生活リズムが崩れてしまい、心身共に整っていない状態で登校してきている子どももいるかもしれません。学校では、１～２週間は特に注意して子どもたちの様子を見ていきます。ご家庭では、「早寝・早起き・朝ごはん」で、生活のリズムを整えてあげてください。また、気になるお子さんの様子がありましたら、早目に連絡をお願いします。２学期もどうぞよろしくお願いします。

スポーツから学ぶ「諦めない気持ち」の大切さ

テレビでのスポーツ観戦が好きな私は、今年の夏はパリオリンピック一色でした。テレビの前でしっかり応援しました。懸命にプレーする選手の姿は、観る人に勇気と感動を与えてくれます。私が特に感動を覚えた３つについて紹介します。

１つ目は、体操男子団体の金メダル獲得です。東京オリンピックでは、「わずか 0.103」で金メダルを逃しました。その悔しさを晴らすために３年間厳しい練習をしてきたはずです。予選を勝ち抜いた８チームで争う決勝。日本は１種目の床で好スタートを切りましたが、２種目目のあん馬で橋本選手が落下、３種目目のつり輪では大きなミスなく演技をしましたが、つり輪を得意とするライバル中国に３点以上に点差を広げられました。４種目目の跳馬では得点を伸ばせず、４位に後退。５種目目の平行棒で２位に順位を上げ、最後の種目の鉄棒につなぎました。トップ中国と 3.267 の差で迎えました。普通に考えると逆転は難しい点差です。しかし、日本の選手は**誰一人諦めていなかった**と後のインタビューで答えていました。「絶対に諦めないぞ」と繰り返し言葉を交し合ったそうです。中国の二人目の選手が２回落下するというミスで、この時点で日本が中国を逆転しました。最後を託されたのは橋本選手です。橋本選手はあん馬での落下、そして予選の鉄棒で着地が大きく乱れ、手を床につけてしまうミスをしており、不安だったと思います。チーム全員が橋本選手を信じ、願いを託した演技。橋本選手は次々と難度の高い手放し技を決めると、最後の着地も止めました。着地が決まった時、私は思わずガッツポーズをしていました。大逆転での金メダル、本当に感動しました。橋本選手は「みんなに助けられた金メダルで、この４人がいなかったら、この演技はできなか

ったし、やっぱり諦めなくてよかった」と話し、喜びをかみしめていました。また、２種目目のあん馬で落下したことについて「すごく引きずっていたが『まだ諦めない』と、気持ちを入れ替えることができたので、そこはすごくよかった」と振り返りました。そして、チームメートの声かけが背中を押してくれたといい「萱選手から『絶対諦めるなよ、いけるから』と声をかけられ、最後の鉄棒は、背中にみんなの思いを乗せて演技することができて本当に幸せだった」と笑顔で話していました。**「絶対に諦めない」**言うのは簡単でも実行するのは難しいことばです。誰もがその思いを強く持ち、チーム一丸となったことが不可能を可能にしました。

２つ目は、スケートボード男子ストリート堀米雄斗選手の金メダルです。東京オリンピックの金メダリストとして臨んだ連覇がかかる試合でした。今年は調子が上がらず、オリンピック代表もギリギリのところで掴みました。ストリートは、階段やレールなどが設置されたコースで、45 秒の間に何回も技を繰り出す「ラン」を２回、一発の大技で勝負する「ベストトリック」を５回行ったうえで、得点が高かった「ラン」と、「ベストトリック」２つを合わせた３つの合計点で順位を争います。堀米選手は前半の「ラン」で４位につけます。「ベストトリック」の１回目に、94.16 の高得点をマークしますが、１回目の演技の後３回続けて失敗し、最後の５回目を迎えます。ここで堀米選手は、起死回生の大技を見事成功させ、今大会の最高得点となる 97.08 を叩き出しだし、逆転で２大会連続となる金メダルを獲得しました。堀米選手は「ここまで来るのに本当に諦めかけたこともあった。予選シリーズの第１戦が終わったあとにオリンピックに行けるかもわからない状況だった中で、**１%の可能性を最後まで信じてやったことが実った**のですごくうれしい」とほっとした表情で話していました。「東京オリンピック後の３年間は地獄のような時間だった」と振り返り、諦めなかった自分を誇りに思うと語っていました。

３つ目は、女子やり投げの北口榛花選手の金メダル獲得です。日本女子ではフィールド種目初の金メダルです。去年の世界選手権で金メダルを獲得し、オリンピックでの金メダル獲得を期待されていました。北口選手は、今季も調子がよく、金メダル候補の一人でした。これまでの試合は、後半の投てきでの逆転が多く、観ている方はいつもドキドキしていました。今回は、１投目で今シーズン自己ベストの 65m80 ㎝でトップに立ちました。この後、この記録を超える選手はいなくて、逃げ切りの優勝です。北口選手は、全身で喜びを表現していました。北口選手は、投てき王国のチェコに渡り、理想の投てきを追い求めています。「選手村に入ってからは毎日、夢の中で 70mを投げていたので悔しい気持ちもある。夢の中で終わってしまった記録も、次は頑張りたい」と語っていました。今に満足せず、さらなる目標に向かって走り続ける姿勢が本当に素晴らしいです。前へ前へと向かう姿勢を見習わなければと思います。

パリオリンピックでの選手の活躍を通して、目標に向かって、決して諦めない気持ちを持ち続けることのすごさ、大切さを教えてもらいました。子どもたちにも、しっかり伝えていきたいと思います。

インターネット等を正しく安全に使わせるために家庭でルールづくりを

インターネット等でのトラブルが社会的な問題となっていますが、子どもたちを被害者にも、加害者にもさせないために、家庭の協力が必要です。

インターネットの危険性を確認

〇誤解によるトラブル　〇ネットいじめ　〇架空請求　〇自分が加害者　〇知らない人との出会い
〇不適切な投稿　〇自画撮り被害

ルールづくりのポイント

ルールは話し合いながら一緒に作ること　窮屈になったら話し合って再調整を
〇利用時間を決める　１日（　）時間まで、夜（　）時を過ぎたら利用しない
〇自宅で使用する場所を決める
〇友達を傷つけるような使い方をしない
〇知らない人からのメールには返信しない
〇変なメールがきたり困ったりしたことがあれば、すぐに保護者に相談する
〇アプリをダウンロードするときは保護者の許可を得る　　等